

## 山本五十六語録に学ぶ

### 1. 大和ミュージアム

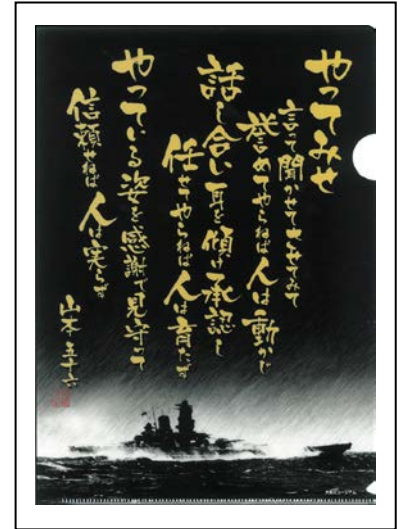
いきなりですが「大和ミュージアムって、ご存じですか？」と尋ねられたら皆さんは如何でしょうか。(参照:<https://yamato-museum.com/>)私は、2005年5月の連休に開館まもない頃に家族と見学しました。写真を掲載しています。(参照:<https://web-ami.com/photogyara/200505.html>)  
広島県の呉市にある施設で

- ・戦艦大和の10分1モデル
- ・人間魚雷(回天)
- ・ゼロ戦

などが展示されていました。

特に、今も印象に残っているのは特攻隊員の肉声です。勿論、録音ですが、両親に呼びかけるように話していて、その時の心境を思うと胸が詰まる思いで聞きました。

その他にも、旧日本海軍関係の資料なども展示されています。右掲は、「戦艦大和ショップ」(参照:<https://yamato.kwn.ne.jp>)をネット開設しており「やってみせ」で検索すると出て来ました。山本五十六語録を調べていたので、言葉だけではなく画像として紹介したいと思い、フリーダイヤルで著作権の為に問い合わせると「クリアファイルの紹介」ならと了解を頂きました。この「戦艦大和ショップ」では、山本五十六語録のクリアファイルや色紙・掛軸・額縁そしてTシャツも販売されています。その他、旧日本海軍や海上自衛隊関連のTシャツなどのグッズも販売されています。



### 2. 山本五十六語録

旧日本海軍と言えば山本五十六元帥が思い出します。そして、すぐに有名な

- ・「やってみせ 言ってみせて させてみて褒めてやらねば人は動かじ」

を思い浮かべます。しかし、前項のクリアファイルには次の2つ

- ・「話し合い 耳を傾け 承認し 任せてやらねば人は育たず」
- ・「やっている姿を 感謝で見守って 信頼せねば人は実らず」

も掲載されてクリアファイルの「やってみせ」全文版として販売されています。この3つの言葉はどれもリーダーとして心得ておかねばならない事ですね。

その他、同ショップでは「五省」も紹介されています

- ・至誠に悖(もと)るなかりしか(真心に反することはなかったか)
- ・言行に恥(は)ざるなかりしか(言葉と行ないに恥すべきところはなかったか)
- ・気力に欠(か)くるなかりしか(精神力に欠いてはいなかったか)
- ・努力に憾(うら)みなかりしか(十分に努力をしたか)
- ・不精に亘(わた)るなかりしか(全力で最後まで取り組んだか)

参照:<https://yamato.kwn.ne.jp/shikishi/gosei.html>

リーダーシップに関してカタカナ語が飛び交う時代ですが、いつの時代も人は同じでテクニック化した理論よりも実践から出ている山本五十六語録から学ぶところが大きいです。リーダーとして、人に働きかけるには常に自分を正しくする必要がありますが「やってみせ」のクリアファイルにある3つの言葉を噛みしめて、特に、言い分を承認し、それを実践している姿を見守るといふ基本とこの「五省」から自分の良心と照らし合わせて反省する事を励行したいと思っています。

なお、「戦艦大和ショップ」(参照:<https://yamato.kwn.ne.jp>)では、いろんなグッズを取り揃えていてネットでも購入できるので手元に置かれる事をお薦めします。

### 3. 世代ギャップを埋める

前述の「戦艦大和ショップ」は山本五十六の隠れた言葉として「実年者は、今どきの若い者などということを絶対に言うな。なぜなら、われわれ実年者が若かった時に同じことを言われたはずだ。今どきの若者は全くしょうがない、年長者に対して礼儀を知らぬ道で会っても挨拶もしない、いったい日本はどうなるのだ、などと言われたものだ。その若者が、こうして年を取ったまでだ。だから、実年者は若者が何をしたか、などと言うな。何ができるか、とその可能性を発見してやってくれ。」を紹介して、「その多くの言葉は時代を超え、山本五十六の情に熱い人柄を今に残しています」と結んでいます。

いつの時代も世代ギャップがあり「実年者」と「若者」の間に大きな隔たりがあるのです。実年者とは中年よりも10才ほど上の世代なので50代・60代と言えますが、例えば、生まれた時からインターネットがある世代は新聞やテレビ離れが起こっていて情報をスマホやタブレットで得る時代になっています。私自身はコンピュータを道具に使っていますが、スマホは携帯電話の域から出ないのです。電話の他には、精々、写真を撮ってメールする位でネット検索ならパソコンで行なう方です。そういう私も書籍離れをしており、新聞広告などで新刊書を知ってもネット検索であらずじを読む方です。だから、「本を読め」とは言えない立場です。

おそらく、今、騒がれている生成AIも実年者の危惧を乗り越えて若い世代がうまく使いこなす時代になると思われます。私自身は、例えば、チャットGPTを使うシーンが思い浮かべられないのです。何故なら、大学を卒業する時に恩師の西治先生から「企業が卒業に期待するものの一つは調べる能力だ」と教わり実践して来たからです。しかし、調べてドラフトにまとめてくれる機能は若い人には「調べる」ことのタイパ(時間効率)向上につながるので、大いに活用して欲しいと思いますが、スマホを使うようになって電話帳を作らなくなっているように頼り切る事には危惧が残ります。

しかし、危惧するよりも山本五十六の「だから、実年者は若者が何をしたか、などと言うな。何ができるか、とその可能性を発見してやってくれ。」の言葉通りに期待感を持って可能性を引き出すようにする事が大切と思っています。

### 4. 「やってみなはれ」で実践

しかし、頭で理解しても実践できるとは限らないのです。若い人の能力を引き出す名言として「やってみなはれ」が有名です。これはサントリーの創業者鳥井信治郎が常に口にしていたと言われていますが、この一言を大切にしたいと思います。個人的な事ですが、50年前に「コンピュータをやりたい」と言って入社した私に、当時はオイルショックの影響で業績に影響を受けており、「金食い虫」と揶揄されたコンピュータを社内やトヨタ自動車の反対を押し切って「ポケットマネーで買ってやる」とおっしゃって下さった故福井社長を思い出します。

ともかく、世代ギャップが出るものは当初は高いモノで、必ずしも成熟したものではないのです。しかし、そこに可能性が秘められているのです。確かに、「壁」が分厚く高いかも知れないが、若者がキラキラと輝くように支援したいと思います。何事も「壁突破」には大きなエネルギーが必要です。私は、実年者の域を超えて74才のシルバー世代ですが、その「未成熟」なモノに挑戦したいという若者が現れれば、ぜひ、自分の孫のように思い見守りながら微力ながら支援をしたいと思っています。ホンマ、「やってみなはれ」と言えるように心がけたいです。そして、原点に戻って山本五十六語録を噛みしめて行きたいと思っています。